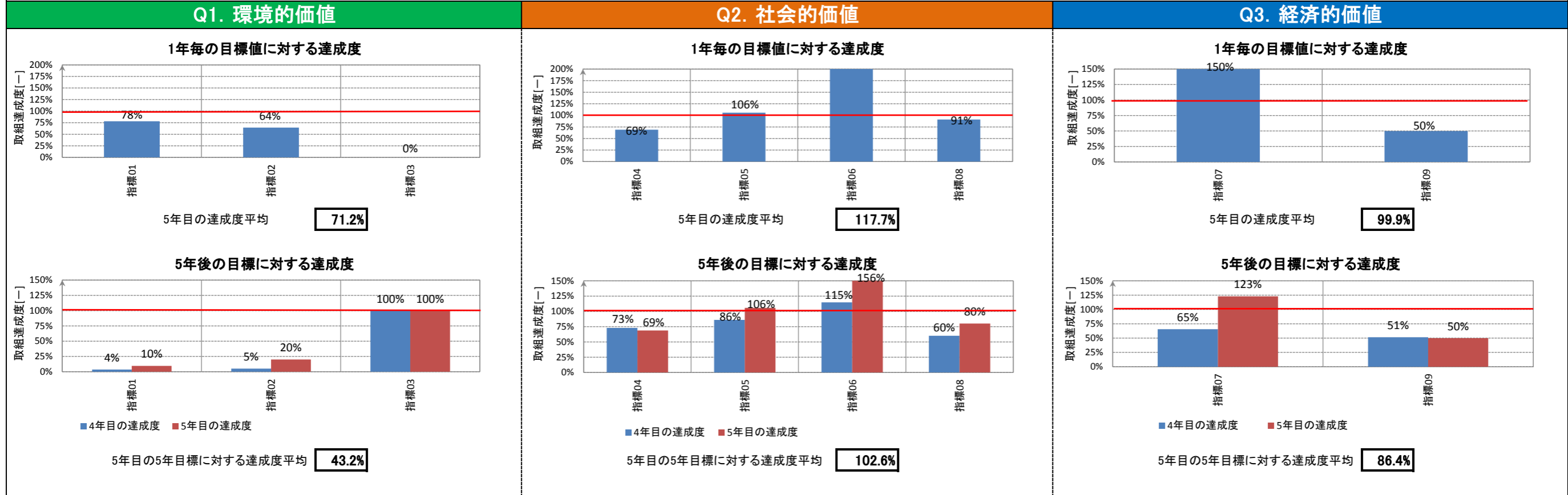


<p>岩手県 釜石市</p>	人口：35,547人、16,874世帯（平成28年3月末現在）
	就業人口：17,547人（平成27年国勢調査）、市内GDP：1,927億円（平成26年度）
	面積：101.86km ² （うち森林面積27.66km ² ）

取組進捗評価結果（都市による自主評価に基づく達成度）



指標番号	指標名	平成28年度の特記事項(国際展開・都市間連携等)	5年間の取組総括
指標01	地域内発電能力(kw)	<p>環境未来都市である北九州市は、製鉄業によって栄えたという点で当市とルーツを同じくする背景があり、震災直後から復興支援のために多数の職員を当市へ派遣いただいているほか、環境未来都市計画やスマートコミュニティの取組についてもアドバイスをいただいている間柄にある。平成26年度より、スマートコミュニティ事業において学校・公共施設へ導入したBEMSを北九州市のCEMSと連携し、電力使用の監視技術を導入する事業を開始し、平成27年度に導入を完了している。</p> <p>また、平成26年度からは、小学生とその家族を対象とした環境・エネルギー問題への意識向上を目的に横浜市をはじめ全国の環境未来都市が実施している「環境絵日記」の取組にも参加した。</p>	<p>①環境分野～スマートコミュニティの推進 エネルギーの地産地消と産業創出を目標に、発電インフラの集積とモデル住宅づくり、様々な産業おこしに取り組んだが、コスト面で実現に至らない多くの取組が残った。しかし省エネ意識と再生可能エネルギーの意義は確実に市民に浸透し、海洋エネルギーなど新たな可能性が広がった。</p> <p>②福祉分野～包括ケアサービスの推進 高齢化と医療資源の弱体化に対応し、市民の健康づくりと医療資源の効率利用のため、保健・医療・福祉・介護の連携に取り組む、成果を上げた。特に異業種の多次元の連携は全国に誇れるものに成長した。</p> <p>③経済分野～フィールドミュージアムの推進 ふるさどを見つめ直し、資源を発掘醸成しながら経済効果を得る取組の主要コンテンツとして橋野鉄鉱山のユネスコ世界文化遺産登録とRWC2019試合会場の誘致に取り組み、いずれも実現出来た。現在はこれらを活かす「釜石オープンフィールドミュージアム構想」を策定し、アクションプランの作成を進めているところであり、ほぼ当初計画どおり進捗した。</p>
指標02	地域内発電量のうち再生可能エネルギーの割合(%)		
指標03	スマートコミュニティモデル構築数		
指標04	OKはまゆりネット加入施設の割合(%)		
指標05	65歳以上の就業者の割合(%)		
指標06	認知症サポーター養成数(人)		
指標07	釜石市への移住世帯数(世帯)		
指標08	週1回以上スポーツを行った人の割合(%)		
指標09	釜石市来訪者数(観光客入込数)(万人)		
		<p>平成28年度の取組総括</p> <p>2カ所(楢ノ木平、中ノ沢)の太陽光発電事業について、概ね計画通り進捗が図られ、いずれも発電を開始することができた。その他、平成27年度に導入した公共施設のBEMSも活用が図られ、省エネに貢献している。防災拠点施設への太陽光発電・蓄電設備の導入、電気自動車の導入についても進捗が図られた。</p> <p>医療福祉の分野においては、認知症サポーターの養成について、目標150名のところ308名、目標達成率205%という高い実績となっている。一方、関係機関で医療関連情報を共有するシステム「OKはまゆりネット」の加入状況は、診療所等が増えたことによる分母の増の影響があるものの、退会する事業所等もあり加入率が減少している。今後、在宅医療連携の促進のための研修会・勉強会を開催し、体制の強化を引き続き図るとともに、医療機関に比べ加入率が伸び悩んでいる介護事業者を中心に、ワークショップ等を開催し課題を抽出しながら、利用しやすい仕組みを構築していく必要がある。</p>	<p>委員からの5年間の取組全体に関する評価</p> <p>○すべての分野で精力的に取り組んでおり、一定の成果が上がっている。特に、定住人口が増加している点は評価される。</p> <p>○民間企業のプラントにおける木質バイオマス混焼については成果を上げているといえる。今後は、周辺自治体との連携などにより、スマートコミュニティのさらなる取組を進めてほしい。</p> <p>○フィールドミュージアム構想など、交流人口の増加に向けた基盤はできつつある。一方、釜石市のユニークな価値を強調してアピールできるもの・ことを創出し、地域の活性化につなげていくことが今後の課題といえる。</p>

三陸の大地に光り輝き、希望と笑顔があふれるまち ～全国の小都市に先駆ける、釜石の新たな挑戦～

岩手県
釜石市

取組の背景・地域特性

釜石市は1857年の近代製鉄業発祥により明治日本の産業革命の魁となり、戦禍や構造不況を乗り越えて一足早く超成熟社会に突入した日本のトップランナー。釜石市環境未来都市構想は、震災により都市存亡の危機に陥った釜石が、地域特性である「ものづくりの魂」と「復興の志」、「支え合いの心」により、逆境をバネに地に足の着いた取組を展開し、全国の小都市の未来に希望の光りを灯す、新たな挑戦である。

主な取組内容

環境

～エネルギーの地産地消と
エネルギー環境を活かした産業創出～

- 防災拠点へのBEMS、太陽光発電及び蓄電設備の整備（29施設）
- 大規模太陽光発電事業（3カ所）
- スマートコミュニティモデル地区の整備（1カ所）
- 海洋エネルギー研究及び事業化のアプローチ
- スマートコミュニティ基本計画策定
- 復興住宅屋根貸し発電の事業化
- エコ水産加工事業の推進
- 事業者による木質バイオの利用拡大



取組事例 スマート復興公営住宅モデル事業

社会

～産業福祉都市かまいしの構築～

- 在宅医療連携拠点チームかまいし編成
- かまいし・おおつち医療情報ネットワークの構築
- 保健、医療、福祉、介護の多次元連携
- 認知症サポーター養成講座の開催



かまいし・おおつち医療情報ネットワークの構築

経済

～フィールドミュージアムの推進～

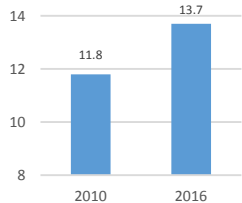
- 橋野鉄鉱山のユネスコ世界文化遺産登録
- ラグビーワールドカップ2019™開催都市に決定
- 観光振興ビジョン「釜石オープンフィールドミュージアム構想」アクションプラン策定
- 地域DMO設立委員会、オープンフィールドミュージアム実行委員会設立



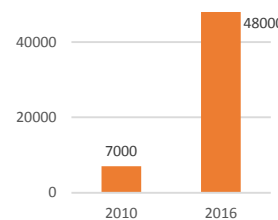
平成27年7月 橋野鉄鉱山が世界遺産に登録

主な成果

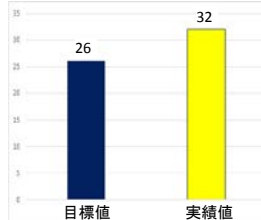
高齢者就業率(%)



火力発電所における
木質バイオマス混焼量(t)



釜石市への移住世帯数



ポイント

- ①環境分野 日本最大規模の風力発電計画を含む発電インフラの蓄積を活かした、エネルギー供給基地化と産業創出への取組
- ②福祉分野 急速な人口の高齢化に、異業種多次元の連携で対応する取組
- ③経済分野 まちの歴史と既存資源を活かし、ふるさとへの誇りと経済効果の両方を得る取組